

高校入試におけるWeb出願システムについて

1 Web出願システムの導入を目指して

第1回入試制度部会では、本県の高校入試出願事務において関係者がそれぞれの立場で感じている負担感等の課題を共有した。また、第2回同部会では、「Web出願システム導入を早期に検討すべきであり、システム整備に要する期間や導入による具体的なメリットを明らかにし、計画的な情報提供が必要である」との御意見をいただいた。ここでは、志願者（受検者・保護者）、中学校、高等学校それぞれのニーズを踏まえ、本県ではWeb出願システム導入によって何を実現するのか、そのためにはどのような機能や検討が必要であるかを整理する。

(1) 前提

- ・本資料でいう「Web出願システム」は、出願手続（願書提出）から受検票発行、合否照会、簡易開示までの一連の事務をオンライン化することを主対象とする。
- ・学力検査の採点、合否判定の実務そのものは、当面の対象外（又は別途検討事項）として整理する。

(2) Web出願システムに求められる機能（完成形）

ア 安全管理

- ・機密性、完全性、可用性の確保（暗号化／データへのアクセス制御／バックアップ等）
- ・信頼性、プライバシーの確保（障害対応・復旧／個人情報の取扱い等）
- ・真正性、証跡の確保（識別・認証／ユーザー権限管理／監査ログ等）

イ 出願手続から簡易開示までのオンライン化

- ・入学願書（入力支援・入力チェック、志願者・保護者の同意、中学校の確認を含む）
- ・志願者名簿（中学校、高等学校での確認用の出力を含む）
- ・入学考査料の電子収納
- ・志願者本人記入書類の作成・提出（活動記録、実技等調査票、志望理由書等）
- ・受検番号の採番、受検票の発行・交付（ダウンロード／印刷を想定）
- ・調査書等のデジタル送信
- ・合否照会（本人確認、閲覧期限、証跡管理等を含む）
- ・簡易開示

2 Web出願システム導入のメリットと課題

(1) メリット

ア 志願者（受検者・保護者）にとっての利便性向上

- ・Webシステムの入力内容自動チェック機能により、入力漏れを防止できる。
- ・電子収納により、時間と場所を問わず入学考査料の支払いを行うことができる。

イ 中学校における業務負担の軽減

- ・出願に係る事務作業を大幅に削減できる（入学願書等の印刷や記入に係る指導、出願書類の取りまとめ等）。
- ・自校生徒の出願状況や入学考査料納付の状況を、リアルタイムで、いつでも確認することができる。
- ・高校から受領した受検票の各生徒への配付作業事務が削減される。

ウ 高等学校における業務負担の軽減

- ・ 出願受理に係る事務作業を大幅に削減できる（出願データや調査書データの入力と出力、受検票交付等）。
- ・ 志願者は出願システムを利用して合否照会を行うことができるため、郵送による選抜結果通知にかかる作業を削減できる。
- ・ 合格者の出願データを学籍データとして取り出すことができ、校務支援システムで利用することができる。

(2) 課題

ア 入学考査料の電子収納

- ・ 電子収納に向けて、収納事務（委託の可否を含む）、決済手段、返金・取消、監査等を制度・運用として確定させる必要がある。また、条例・規定の整理が必要となる。

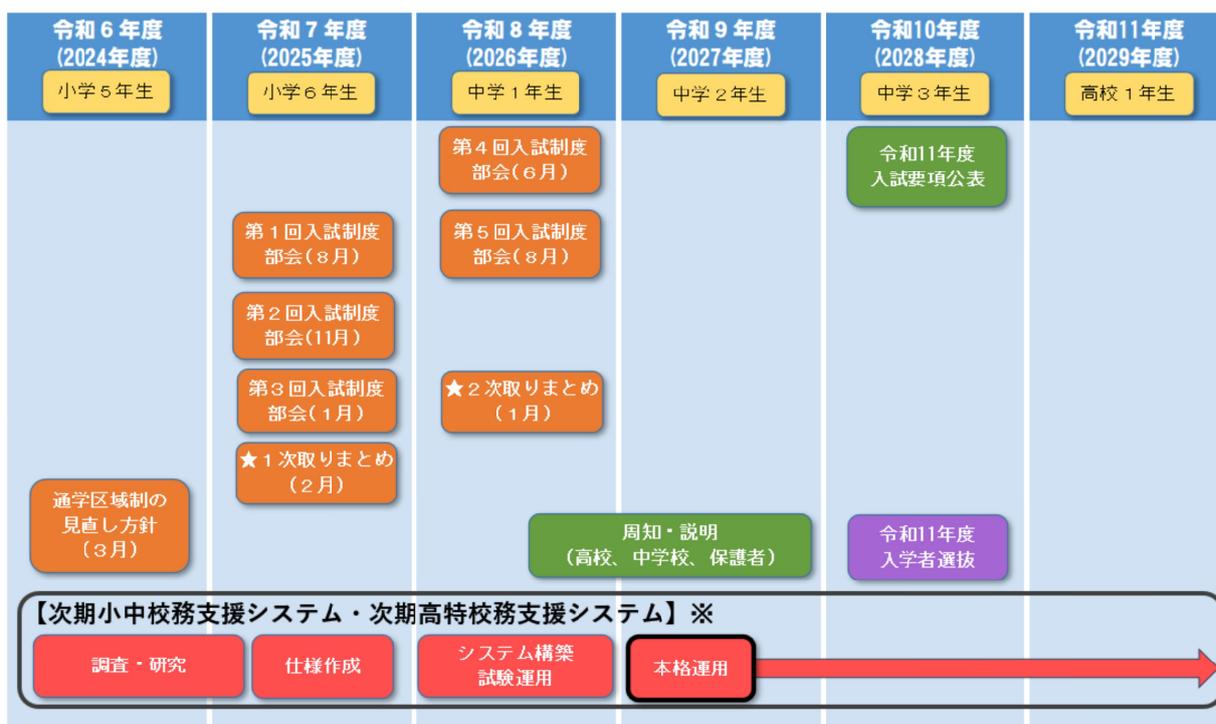
イ 徳島市立高等学校に係る入学考査料納付方法の相違

- ・ 徳島市立高等学校は徳島市教育委員会の所管であり、入学考査料の納付方法が県立高等学校と異なる（現在は現金納付）。
- ・ 同一の電子収納への移行を目指す場合は、市の条例・規定や収納事務の整理、システム連携・費用負担等について、徳島市との調整が必要となる。

ウ 簡易開示（得点等の本人閲覧）のオンライン化

- ・ 簡易開示には採点結果等の入試データとの連携が必要である。
- ・ 個人情報情報をWebで実施する場合、現行の簡易開示（口頭）との関係整理が必要であり、制度設計によっては、個人情報の保護に関する法律施行条例（令和4年徳島県条例55号）の条例改正が必要となる可能性がある。

3 スケジュール（予定）



※徳島モデルによる次世代校務DX環境整備事業により整備予定

県内の公立小・中・高・特別支援学校が共同で利用できるクラウド型の次世代校務環境を構築し、教育現場のデジタルトランスフォーメーション(DX)を加速させる。